# 地域計画の策定に向け、各区に地図＋担い手リストを提起

## 京田辺市

## 独自チラシで手順を説明！

京田辺市は、「地域計画」策定を各区に呼びかけるチラシ（左）を作成し、各区への説明会を開始した。

チラシでは、区ごとに農業委員会委員と農業者が定期的に集まり、区で決めた「守るべき農地の範囲」を「区で認めた耕作者」が守る将来像を全員で協議し、来年度までの2年間で「区の地域計画」を策定する方法を具体的に示している。

事前に、農業委員会の委員や農家組合長などで準備を行い、会議当日は部屋の中央に机を置いて地図を広げ、参加者が地図を囲んで実際の耕作者についての情報を出し合い、年齢別の色塗り作業を進める。さらに、「水稲ができること」など〝担い手の条件〟を決め、各担い手に農地の割り当てを行う方法で、誰がどのエリアを守っていくか全員の認識が一致すれば「目標地図」はおおむね完成だ。

### 農業委員会の「地区連」を各区で開催

京田辺市農業委員会では、区ごとに農業委員と農業者が集う場を「地区連」と名付けて、各区で地元農家に参加を呼びかけて開催する。

「地域計画」の策定に向けて、委員と農業者が「農地として守るべきエリア」の担い手情報を共有する取り組みに力を入れている。

5月と6月の定例総会では、先行して取り組んだ東林区や江津区の経験が報告され、今後の活動について活発に意見交換を行った。




### 耕作者の年齢別地図で担い手不足エリアを可視化

京田辺市 江津区

江津区では、5月5日、森岳人農業委員と農家組合メンバーが公民館に集まり、市が事前に着色しておいた「所有者の年齢別に着色された地図」を基に、地元の農業者の手で「実際の耕作者の年齢別に色塗りした地図」を完成させた。

耕作者が71歳以上、60～70歳、59歳以下の農地を3色で塗り分けて可視化した結果、10年後の担い手が不足するエリアについて参加者の認識が一致した。

認定農業者として地域の農地を引き受けて活動する森委員は「引き続き、隣の宮ノ口区でも耕作者情報を共有する取り組みを進めていきたい」と意欲を見せる。



江津区では耕作者の年齢別に現況地図の色塗りを実施した（5月5日）

## 現場の想い

### 担い手の育成と定着

◆農業従事者の担い手不足が深刻化する中、就農希望者を新たに雇用して研修を行う事業体を支援する「雇用就農資金」（2021年度（令和3）まで「農の雇用事業」）が多くの事業体で活用されている。過去に同事業で研修を受けた人が、事業体の中で立場を変えて後輩の研修指導を任されたり、事業体から独立して地域の担い手として活躍している事例が多数ある。◆その一方で、対象者の約3割が事業終了1年後には、離農している現実もある。病気が原因など「やむを得ないケース」もあるが、労務管理への不満や将来への不安、コミュニケーション不足などが原因であるケースもある。離農となると、本人はもちろん、事業体もダメージを受けるので、人材の定着は「最大の課題」となっている。◆このため、「雇用就農資金」を活用する事業体には、適切な労務管理や人材育成の実施に向けてのセミナーを受講することや、安心して働ける職場環境づくりに取り組むことが求められている。◆これらの取り組みが地域全体にも拡がり、新たな人材の農業への定着促進につながることを期待している。（さ）

## 新会長の抱負

井手町農業委員会
**寺島 正直会長（74）**



### 「テオテラスいで」を農業振興に活かす

井手町では、今秋、農産物直売所を併設した地域振興交流拠点施設「テオテラスいで」が開業する予定で、農家所得向上につながると期待されています。

農業委員会は、農地利用の最適化を推進するため活動しています。会長として「地域計画」の話し合いを推進し、町農業振興のため積極的に活動していきます。

## 京都

京都府支局
京都府農業会議
京都市上京区出水通油小路東入丁子風呂町104・2
京都府庁西別館内
075・441・3660

新技術の効果抜群！

## 「転炉スラグ」で土壌病害を軽減

長岡京市で花菜を生産する能勢裕宜（ひろのぶ）さんは、製鉄所の製鋼過程で発生する副産物の「転炉スラグ」（土壌改良材）を用いることで、根こぶ病の抑制に成功。普及センターとJAの技術指導により、花菜部会の生産者仲間にも取り組みを働きかけた結果、これまでに5人が導入し、高い効果が確認されている。



トラクターで転炉スラグを散布する能勢さん

転炉スラグの施用は、pHを高めて根こぶ病が発生しにくい土壌に改善するだけでなく、マンガンやホウ素などアブラナ科野菜に必要な微量要素を含むため、花菜の生育を促進する効果もある。初年度の経費は必要だが、効果が長期間にわたって持続するため、経費の節減につながる。

花菜栽培に転炉スラグを取り入れた能勢さんの成功がきっかけとなり、長岡京市だけでなく、向日市の生産者にも取り組みが広がっている。

「乙訓特産の花菜を守り育てるため、1人で解決できない問題については地域全体で対処していきたい」と能勢さんは語っている。

（長岡京市農業委員会）

### 「花菜」生産者に普及進む

長岡京市　能勢裕宜さん

## 女性委員が〝つないで発信〟

つないで発信

### 木津川市の情報発信基地キチキチ

木津川市役所の北隣にある『木津川市情報発信基地キチキチ』は、「みんなが集い交流できる場所をつくりたい」という故佐藤啓子さんの想いで、市民の手で古い建物を改装し、6年前にオープンしました。

建物内にはカフェ、ギャラリー、レンタルスペース、シェアオフィスなどがあり、運営する加藤史江さんと松本藍さんを中心に、子育てや食、農、アートをテーマにイベントが行われています。

カフェでは地元産の野菜やお茶を使った料理を出し、月に一度の『つり店』週間には、野菜を吊り台や茶箱にディスプレーして販売しています。登録農家（12団体）から入荷する新鮮な野菜が好評です。

「農家とつながり応援したい」との思いで情報を発信していただけるのは、農家にとって有り難いし、貴重な場所です。私も市民の1人として応援し、農業と台所をつなぐお手伝いができたらいいなと思っています。

インスタグラム kichikichi_kizugawa

（木津川市農業委員会・赤穂海佳委員）



木津川市の農産物をPRする松本さん（左）と加藤さん

## 農deきらきら

笠置町　**原垣内 光代さん**

### 家族と地域に支えられて

笠置町南部地域で約37㌶の田畑を持つ原垣内（はらがいと）光代さんは、奈良市の自宅からほぼ毎日40分かけて通っている。

笠置町内に住む父（西村重男さん）や、休日には税理士の夫（堅（かたし）さん）、中学3年生の次女（茉帆（まほ）さん）にも手伝ってもらい、水稲、ニンジン、イモ類などを生産している。

茉帆さんお気に入りの手伝いはジャガイモの収穫。ポテトチップスにして食べるのが楽しみだという。

地域の方からは、水稲の水管理や水漏れの修理で助けてもらったり、田起こしの方法などアドバイスをもらった。

光代さんは「家族の協力と地域の方々の助けのおかげで、両親が守ってきた農地を守り続けられる」と感謝している。

高齢化による担い手不足のなか、原垣内さん一家のように家族で楽しく、農地が受け継がれていくことを願っている。

（笠置町農業委員会）



感謝を伝える光代さんに「農作業は楽しいよ」と堅さん